

登別市市民自治推進委員会 第3回 事業見直しに関する企画委員会議事録

日 時 平成23年 2月24日(木) 18:30～20:15
 場 所 登別市市民活動センター 2階 市民活動室D
 出席者(役員) *関 修 大山口光男 平田和弘 平田誠治 関川昭雄 参加者: 5名
 *高橋忍三 *吉野良子 *鎌田和子 *佐々木幸彦 瀧川正義 (*:欠席者) (敬称略)
 *木村義恭 *田中寛治 第3回議事録作成 瀧川

審議・確認事項

1. 検討資料の説明 瀧川

- (1) 検討準備資料 【出展元: 「平成22年度登別市の仕事」「平成22 予算書」】
- 平成22年度 登別市の仕事 分析資料 …… 3 頁
 - 平成22年度 「登別市の仕事」と「予算書」との事業比較 …… 6 頁

(2) 検討内容の説明

前回の平成22年度「登別市の仕事」と「総合計画」との事業比較の予算額差異を調査すべく、「平成22年度登別市の仕事」と「平成22年度 予算書」を調査した結果、ほぼ解明した。

「登別市の仕事」の掲載内容は一般会計のみであり、一部、公共下水道事業が掲載されていた。また、予算書に無いものが1件、予算書にあって未掲載の事業が162件あった。さらに、職員等給与関係は金額が不一致で理由は確認できなかった。

全体として、

・予算書	191.1 億円	}	・全ての事業が掲載
・登別市の仕事に掲載	166.1		・議会の話題分?
・公共下水道事業の一部	-8.5	}	・明快な掲載・未掲載理由なし
・予算書になし(公民館運営管理経費)	-0.02		
・登別市の仕事に未掲載(162事業)	32.7		
・不明	0.8		

ここまで調査するのに、かなりの労力を費やした。特別会計の調査はひとまず中断する。

不明点は0.4%でほぼ調査したが、個別では「職員等給与関係」で不明点が多い。追って、調査したいが独力では無理であり、ヒヤリングが必要なことから、検討方針が決定してからのしたい。

2. 審議内容

以上のことを踏まえると、今まで私(瀧川)が考えて言ってきた進め方について、方向を変える必要があるかも知れない。

例えば、調査検討対象として、

- (1) 個別案件を対象にする
- (2) 職場(部署)を対象にする
- (3) 財政関係の改善策を対象にする
- (4) 行政関係の改善策(役所全体の職務遂行方法)を対象にする
- (5) 業務量と要員関係を対象にする
- (6) 民間と比較した適正給与制度とは

皆さんの意見はどうでしょうか。考えてみてください。

登別市の事業仕分けの後処理として、評価をしてはどうか。

今後の事業仕分けはやめると新聞に公表されたが、理由を含め、中途半端に感じるし、今後の改革のことを考えると、このまま放って良い訳は無い。

行政改革を役所に任せてやれるわけは無い。

長年染み付いた考え方や業務遂行方法は簡単に変えることは出来ないのではないか。

職務規定として、マニュアルは存在するのか。そのようなものがあれば、不祥事は起こるはずが無いのではないか。

役所では改善が難しいのではないか。

役所ではこの時期、予算書作りで忙しいのではないか。また、日頃の仕事は忙しすぎて改善まで手が廻らないのではないか。

末端の職員が予算書作りしている訳ではない。それが甘え体質の考え方と言うもので、忙しい部署・人ほど改善を加えて「楽」しようとするべきである。後押しの意味で、報奨制度等を用いて、効果が更に出るようにするのが管理者ではないでしょうか。

職場のローテーション人事や職務規定の問題など、思惑の話題になったので打ち切り、議事録も省略する。

自治推進委員会には権限が明確でないので、議員と協働で改革を進めて行ってはどうか。

現在の自治推進委員会メンバーは時間的な制約や個人のスキルなど、力不足は否めない。しかし、行政や議員とは違った目を持っているのも事実である。今後の推進方法として、大いに協働していくべきと考えられる。

現段階では時期尚早であるが、検討課題が明確になった段階で議員側と話し合いたい。

また、「行財政改革実施プラン…計画期間(H22-H25)」が昨年末に発表されているが、その関係との整合性を取る必要もある。いつもながら、計画書を作ったら安心して、その後の実施や評価との整合性確認を行なわない行政のやり方を正すのが「一番の行政改革」ではないだろうかと感じることが多くなってきている。

3. 次回の検討内容

次回以降の意見がまとまらないまま、本日は時間になりましたので、次回は各自、今後の進め方について意見を持ち寄ってください。

次回 企画委員会開催予定

平成23年3月17日(木) 18:30～20:30

以上